

松禪寺報

石室山松禪寺

住職 高橋 乾峰

〒668-0363

兵庫県豊岡市但東町栗尾 469

電話 0796-55-0034

FAX 0796-55-0066

Mail kenpou@syozen.com

<http://syozen.com>

第32号

発行 平成20年9月25日

まことなる心の月を観る

暑い暑いと口癖のように言っていた今年の夏はどこへやら、すっかり秋めいてきました。秋の気が澄み始めると、月の光が冴えわたります。『春は花 夏ほととぎす

秋は月 冬雪さえて

冷しかりけり』(道元禪師)

と詠まれるとおり、秋は「月」です。

中国は唐の詩人・李白は『把酒問月』(酒をとつて月に問う)でこのように詠んでいます。

今人不見古時月(今人は見ず 古時の月)

今月曾經照古人(今月は曾經て古人を照らせり)

古人今人若流水(古人今人流水の如く)

共看名月皆如此(共に明月を看ること皆此の如し)

今の人は昔の月を見ることではできないが、今ある月は以前、昔の人を照らしていたのだ。昔の人も今の人も、流れる水のように、い

ずれもそのように月を見ては、時とともに去っていくのだ、という意味ですね。

澄み切った夜空にかかる、さやかな月の光は、かつては私たちの

鏡に見立てられ、私たちの心を映し、遠く離れてしまった人々と月を介して心を通わせることもできます。

吾心似秋月碧潭清皎潔(わが心秋月に似たり、へきたん清くしてこうけつたり)

「寒山詩」のなかの有名な一句です。「私の心は秋の名月にも似て、青々とした深い水のように透明で汚れがない。これにならぶことのできるものは他に無い。私はこれをどのように説明すればいいのか分からない。」という意味です。

祖先をも照らした月の光でもありません。歳月を経ても変わらず輝きつづけ、李白が手にする杯にもおなじ光を宿す月、仏教ではこれを仏性に喩えます。月の光は澄み、熱く燃える光ではなくどこか冷や

秋の夜長、皆さんの心に宿せる仏性について、また古来より変わらぬ光を照らし続ける月の如く、永縁に滅ぶことのない時間というものについて、思いを巡らせてみてはいかがでしょうか。



平成21年に遠諱大法会が営まれます

妙心寺の開山 無相大師650年

50年に一度巡り会える開山さまの法要にお参りいたします

無相大師さまの一生

大本山妙心寺(京都市右京区花園)の開山は、関山慧玄(かんざんえげん) 禅師さまで、明治42年に無相大師(むそうだいし)の勅号を賜りました。この無相大師さまは、建治3年(1277)に信州の地でお生まれになったと伝え

られています。31歳の時に建長寺の大応国師(だいおうこくし)さまについて、51歳の時には大徳寺の大燈国師(だいとうこくし)さまについて修行され、53歳でお悟りを開かれました。

建武4年(1337)、大燈

国師さまについて

修行をされていた花園法皇

(第95代天皇)



▲妙心寺を開かれた無相大師さまの木像

さまは、国師さまが病に伏し重態となられたため、国師さまの推挙で弟子の無相大師さまを師とされました。そして、花園の離宮を禅寺にさ



▲開山さまが入寂された風水泉

れ、大燈国師さまより「正法山妙心寺」の号を授かりました。暦応元年(1338)、無相大師さまは花園法皇さまに請われ妙心寺に入り、ご開山とされました。師62歳の時でした。延文5年(1360)、無相大師さまは風水泉という井戸の傍らで旅装束のまま立ったまま遷化

されたと伝わっています。84歳のご生涯でした。

遠諱大法会が営まれます

来たる平成21年は妙心寺のご開山(初代住職)である無相大師さまの650回忌にあたります。この50年毎に行われる大法要のことを遠諱(おんき)といいます。春と秋に分かれて全国の花園会員がお参りして盛大な遠諱大法会が営まれます。このたびの遠諱は、無相大師さまのお言葉「請う、其の本を務めよ」をかみしめ、「いのち」の大切さを世に問いかけるものです。

今の自分があるのはご先祖さまのお陰であり、その恩は妙心寺派の私たちにとっては開山さまにさかのぼります。遠諱テーマ「どう活かすわたしのいのち」にもありますように、そのご恩に感謝して、脈々と受け継がれてきたいのちの尊さに気づき感謝するこの大法会にぜひお参りいたしまし

松禪寺は4月1日にお参りします

この度の無相大師さま六五〇年遠諱大法会には、妙心寺派山陰東教区の事業として参加いたします。教区からは総勢700人が3日間4班に分かれてお参りいたしますが、松禪寺は桂昌寺と共に平成21年4月1日～2日の1泊2日の行程で参加いたします。

開山無相大師650年遠諱大法会の旅

期日：平成21年4月1日(水)～2日(木)
旅行費用：3万円(本山へのお供えも含みます)
参加割当人員：18人
申込方法：平成20年11月末日までに申込書に必要事項を記入の上、申込金1万円を添えて松禪寺までお申し込みください。なお、緑色



の「参拝之證」(スタンプを押しってもらうもの)をお持ちの方は、申込時に松禪寺へ提出してください。その他：参加希望者のうち、平成19年11月に実施しました妙心寺への松禪寺団体参拝に参加された

旅程(全行程貸切観光バス利用)

4/1 (水)	各地区 — 須知 — <京都縦貫道> — 龍安寺(特別諸堂拝観) — 大本山妙心寺 — ~8:00 9:15~9:30 10:45~12:00 12:15到着
	「大本山妙心寺 開山無相大師650年遠諱大法会」 本山到着後、微妙殿にて昼食 法堂にて遠諱法要・団体廻経 法要終了後、開山堂・玉鳳院・涅槃堂参拝 — 大本山妙心寺 — おごと温泉(宿泊) 16:30出発 17:30頃
4/2 (木)	ホテル — <琵琶湖大橋> — 養老SA — 美濃加茂市・正眼寺(無相大師御開山) — 8:00 9:45~10:00 11:00~12:15
	— 美濃関物産館(昼食・買物) — <東海環状・東海北陸・名神高速道路> — 多賀SA — 12:30~13:45 14:45~15:00 — 赤松PA — <北近畿豊岡道> — 和田山IC — 各地区 16:45~17:00 18:15頃

右の写真は、岐阜県美濃加茂市にある正眼寺です。このお寺も、関山慧玄(かんざんえげん) 禅師さまを開山とする、極めて縁の深いお寺です。山深いこの地で9年の間、里の人のために請われて耕作牧牛の手伝いを行いながら、僅かの暇さえあれば修行に励まれたと伝わっています。今回の旅程では少し距離もあるため車中が長くなりますが、ぜひお参りしていただきたいお寺です。



方々は、遠諱用の輪袈裟を必ずご持参ください。

駐車場拡張工事は完了 臨時費ご協力に感謝

松禪寺駐車場の拡張工事につきまして、すでに舗装も完了して利用できる状態になりました。お陰様をもちまして今年5月にご協力をお願いいたしました駐車場拡張工事に伴う臨時費につきましても、予定通り完納となりました。檀信徒皆様には温かいご協力をいただき誠にありがとうございます。紙上よりお礼申しあげます。

なお、墓地造成につきましては、現在墓地の申請をいたしておりまして、認可が下り次第区画工事に入ります。



▲拡張工事が完了した駐車場

ミャンマー及び中国四川省大地震義援金 ご協力ありがとうございました

松禪寺花園会(会長・西垣勉氏)で進めていました「ミャンマー・サイクロン及び中国・四川省大地震義援金」の募金活動につきまして、多くの皆様のご協力をいただきました。募金総額は、1万2千85円でした。この募金は、本年8月25日に妙心寺派花園会本部に届けました。本部では、公的機関を通じて被災地の復興及び被災者救援のために活用されます。

本山花園会本部より 米寿のお祝い

今年も妙心寺派花園会本部より、米寿を迎えられた檀信徒の皆さん6名の方々に、お祝いの表彰状と輪袈裟が届けられました。

お家に長寿の方々が居られるのは家庭和楽のもとであり、一家繁栄の瑞兆とお祝い申しあげる次第

達磨忌のご案内

です。ますますのご長寿を保たれるよう願ってやみません。おめでとうございます。



来る11月3日(月)、松禪寺では達磨忌と開山忌を営みます。

達磨大師は、禅宗の開祖です。南インドの小国の王子として生まれ、後に出家して菩提達磨と名を改めます。禅を伝えるために中国に渡り、洛陽の少林寺で面壁して坐禅すること9年に及んだと言われています。

また、松禪寺は来翁祖諱(らいおうそじゅん)和尚大禪師を開基として、禪師の師である一笑禪慶(いつししょうぜんけい)和尚大禪

師を勧請開山としています。10月20日が忌日ですが、達磨忌と併せて開山忌も次のおり執り行いますので、ぜひお参りください。

とき 11月3日(月)

午前11時より法要

正午齋座(けんちん汁)

場所 松禪寺本堂

※炊事当番さんは午前8時30分にご来山ください。

写経の会を 始めます

写経というのは、経典を書写することで、古くはインドの大乗仏教において、すでに行われていたということですが。日本でも、願いを込めてする写経は平安時代から行われてきたそうです。

松禪寺では、皆様に写経の機会を持つていただくと考えています。月1回程度、「般若心経」の写経の会です。具体的に日時はまだ決めておりませんが、お一人でも参加希望者があれば、その要望に応じた日程ですすめたいと思っています。

どうぞ、菩提供養のため、自身のためにも、一度、写経を始めてみてください。